

野外芸術文化ゾーンモデルイベント調査報告書

平成16年10月

エヌ・アンド・エー株式会社
(NANJO and ASSOCIATES)

目次

- 1、はじめに
モデルイベントの目的……1
 - 2、アートチャンネルワダ vol.2
概要……2
イベント詳細……3
アンケートによる調査の結果…… 6
 - 3、アートチャンネルワダ vol.3
概要…… 10
イベント詳細…… 11
アンケートによる調査の結果…… 15
 - 4、総括…… 21
- (別添)
本モデルイベント業務制作物一式

1、はじめに

モデルイベントの目的

官庁街通りの魅力をいっそう高めるため、芸術文化の面から活用を図ることにより、この通りを全国に誇ることできる芸術文化の鑑賞空間創造の場とすることをめざした「野外芸術文化ゾーン」の基本計画作成にあたり、本計画がより市民にとって親しみやすくなるためのモデルイベントを実施した。イベントを実施することで、本計画の周知を図るとともに、市民等の意見、反応等を調査し、基本計画作成のための資料とすることが目的である。

アートチャンネルトワダとは

昨年度にひきつづき、モデルイベントの名称は、「アートチャンネルトワダ」とした。チャンネルという言葉の本来の意味は、「道筋」、「伝達経路」といった意味であり、情報を伝えたり、関心を向けたりするという意味もある。また「水路」という意味もあり、(運河を意味するCanalとは語源が一緒)十和田のまちづくりが稲生川の上水に成功したことから始まったという意味からも今回のイベントがきっかけとなって、今後の十和田市の野外芸術文化ゾーン構想に道筋を作るという意味合いにもなると考えられた。「野外芸術文化ゾーン」をスタートさせることの宣言という意味付けとしてこの名称とした。

2、アートチャンネルトワダ vol.2

概要

主催：十和田市
後援：(社)十和田市観光協会、十和田商工会議所
企画制作：ナンジョウアンドアソシエイツ
日程：7月30日(金)、31日(土)
ところ：官庁街通り、桜の広場、市相撲場 他

紙コップアーティストのLOCOを招聘し、2日間にわたりアートイベントを開催した。LOCOの作品を通してコミュニケーションアートを体験してもらうことを主眼とした。
2日間の入場者数はおよそ500人。

作家略歴

LOCO(ロコ)は世界でただ一人の紙コップアーティストとして1000人での糸でんわパフォーマンスや、グルジア共和国に招待されてのコップ人間パフォーマンス等、作品を通して人と人とのつながりを提案している。Dialog in the Dark(暗闇美術館)の中での糸でんわパフォーマンスや、糸でんわで注文する喫茶店アート・カフェOPEN。また、大阪新聞、読売新聞にてアートエッセイ連載。他、ラジオ、テレビにも出演。たけしの誰でもピカソ「誰ピカミュージアム」出演して、たけしと結婚パフォーマンス。神戸国際会館にてコップ人間による結婚式(FOCUS掲載)。「美術手帖」にて対談。兵庫県立近代美術館での「アート・ナウ」に出品。北海道立近代美術館・群馬県立近代美術館にコップ人間を出品。兵庫県立美術館にてMUSEUM ART LIVEコップ人間幻想空間遊園を出品。イギリス国営放送BBCによる日本を紹介する番組「JAPANORAMA」に出演。2003年ベネチアビエンナーレに招待パフォーマンス。2004年初エッセイ「LOCOMOTION」出版。



イベント詳細

アートカフェ

アートカフェでは、LOCOが制作したアートコップやアートストローでコーヒー、麦茶を提供した。アートカフェにはテントが設営されLOCOの紙コップによるインスタレーションも行われた。官庁街通りの木陰にテーブルとイスを設置し、野外芸術文化ゾーン構想の資料およびアンケート、アート関連の図書を置き、市民の方に、野外芸術文化ゾーン構想やアートについて理解を深めてもらうような機会を設けた。

イベントは飲み物が無料で提供されたことと連日の猛暑も重なって多数の人々が来店し、アートカフェを楽しんでいた。とりわけ子供たちは、一筋縄では飲めない不思議なコップに悪戦苦闘しながらも、大喜びしていた様子。2度3度と訪れる子供たちの姿も多く見られた。大人も遊び心満載のコップに思わず大声をあげて喜んでいました。

また二日間とも数名のアート関係者が青森や弘前からかけつけサポートしてくれたことも、スムーズにカフェを運営することにつながった。

とき：2004年7月30日（金）、31日（土）午前10時から午後5時

ところ：官庁街通り（桜の広場前）



アートカフェ全景



十和田市長来店



糸でんわのインスタレーション



コップが等間隔に板にはりついている



あたりのストローが一本しかないコップ



誰でもコップ人間になることができる

LOCO in ミスとわだコンテスト

(社)十和田市観光協会ならびに十和田市商工会議所の後援のもと市民納涼まつりのイベント「ミスとわだコンテスト」で「一日トワダ観光大使コンテスト」というパフォーマンスを行った。コップ人間たちが順番に十和田市のアピールを行い、優勝者が一日観光大使に任命されるというものである。リハーサル時間が十分ではなかったこととお祭り会場の独特の雰囲気の中、パフォーマーたちが戸惑うこともあったが、最後にミスとわだを囲んでの記念撮影には多くの市民が参加した。

とき:2004年7月30日(金)午後6時30分から午後7時30分
ところ:相撲場



会場の相撲場の様子



観光協会副会長よりタスキの授与



ミスとわだを囲んでの記念撮影

御国自慢プロジェクト in トワダ

このプロジェクトはアーティストのLOCOが、「アートで街を活性化できないか？」と始めた『あなたの御国自慢づくりませんか?』プロジェクトの第2段である。十和田市のお祭り会場や名所を巡りながら取材、撮影を行ない、LOCOの体験談つき十和田市のPRパンフレットを作成する。このプロジェクトはさまざまな関係者や市民の方々の協力により行うことができた。

～お祭り会場編～



魚のつかみ取りに参加



緑地公園のクラシックカー展示場にて



官庁街通りにて

御国自慢プロジェクト in トワダ

～ 十和田市名所編 ～

市内での撮影は7月29日、30日に行われた。事前に撮影場所を調整し関係各所に撮影許可をいただいていたこともあり、スムーズに作業が行うことができた。

撮影場所

- ・十和田乗馬倶楽部
- ・新渡戸記念館
- ・十和田観光電鉄電車
- ・称徳館
- ・カヤ人形
- ・道の駅とわだ
- ・匠工房



十和田乗馬倶楽部にて



新渡戸記念館にて



十和田観光電鉄電車内にて



匠工房にて



裂織体験中

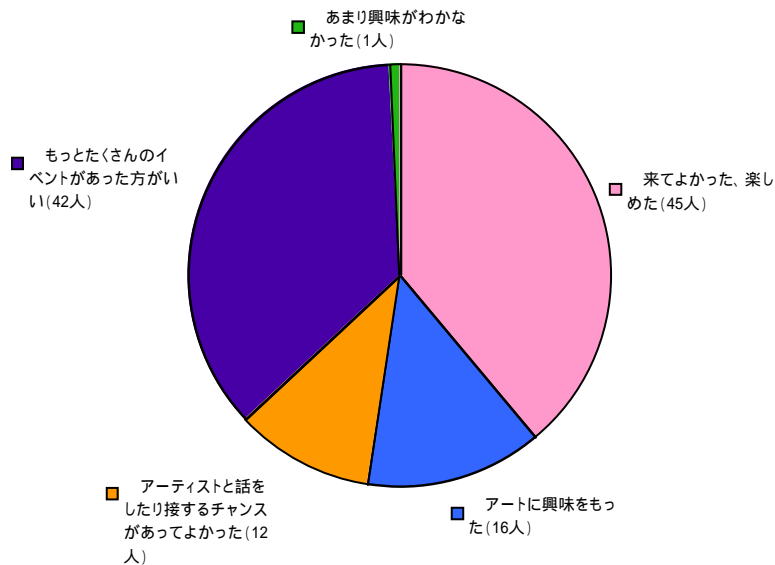
アンケートによる調査結果

「アートチャンネル vol.2」開催期間中、来場者にアンケートへの記入協力を募った。アンケートの調査結果は次の通り。

アンケート回収枚数 80枚

設問1 アートチャンネルトワダ vol.2はいかがでしたか。(該当する番号に丸をつけてください。複数回答可。以下同じ。)

- 来てよかった、楽しめた(45人)
- アートに興味をもった(16人)
- アーティストと話をしたり接するチャンスがあってよかった(12人)
- もっとたくさんのイベントがあった方がいい(42人)
- あまり興味がわかなかった(1人)

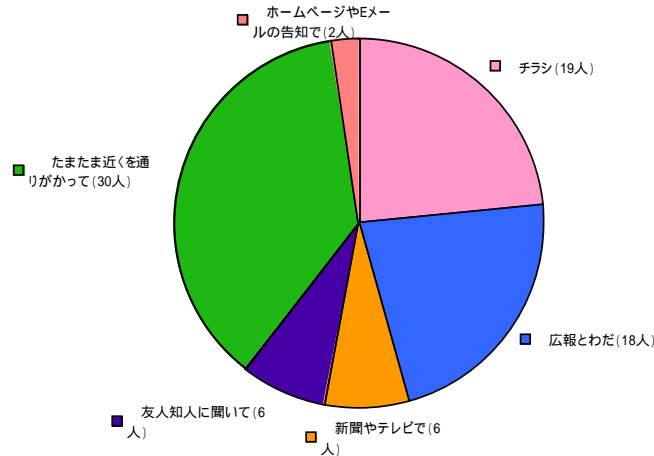


その他、ご意見があればお聞かせ下さい。(自由回答)

- ・暑い中おつかれさまでした。とてもかわいくて好きです。
- ・すごいと思う。個人の感受性、センスがあうかですからね～。
- ・ひとつのイベントを企画して、実行するまでには様々な気苦労とかあると思いますが、困難にめげず定着できるようがんばってほしい。

設問2 今回のイベントのことをどのように知りましたか。

- チラシ(19人)
- 広報とわだ(18人)
- 新聞やテレビで(6人)
- 友人知人に聞いて(6人)
- たまたま近くを通りかかって(30人)
- ホームページやEメールの告知で(2人)

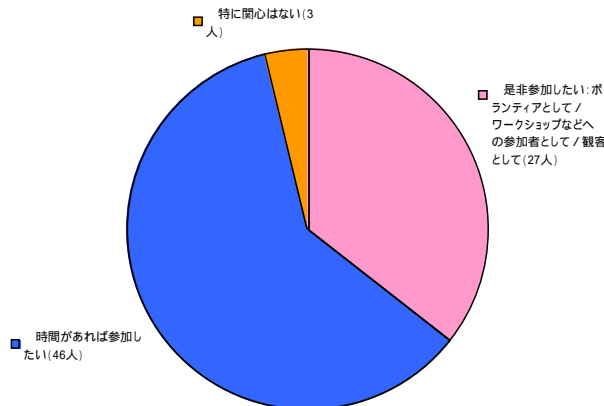


その他、ご意見があればお聞かせ下さい。

- ・基本的には私にはアートがわかりません。すごいとかなるほどとか思うけどネ。
- ・近くでフリーマーケットをやらせていただいております。
- ・公民館のサークルできていました。のことは忘れていました。
- ・自分の休みにあたらないと思いつーんと言う感じで広報十和田を見ていました。頭のすみにはありました、用事がありたまたま通り、またまたふーんですが、色々はなしを聞き、これからも時間があったら来てみたいです。
- ・図書館に来て帰りに寄ったので。

設問3 このようなイベントがあれば参加したいですか。

- 是非参加したい(ボランティアとして/ワークショップなどへの参加者として/観客として)(27人)
- 時間があれば参加したい(46人)
- 特に興味はない(3人)

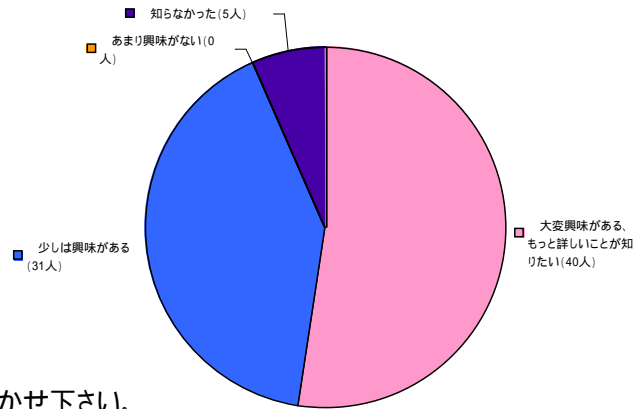


その他、ご意見があればお聞かせ下さい。

- ・ずーっと置いとくのではなく、イベント時に参加する形だね。うっ時間がね～。では～。
- ・とても良かったと思います。
- ・市の方で、農家の人にも声をかけて参加していただき、安く野菜等も提供した方がよろしいかと思います。

設問4 現在十和田市では、官庁街通りにアート作品を置いたり、芸術活動をサポートする施設をつくることで、全国に誇れる官庁街通りをつくる「野外芸術文化ゾーン」を計画しています。「野外芸術文化ゾーン」についてご意見をお聞かせ下さい。

大変興味がある、もっと詳しいことが知りたい(40人)
 少しは興味がある(31人)
 あまり興味がない(0人)
 知らなかった(5人)

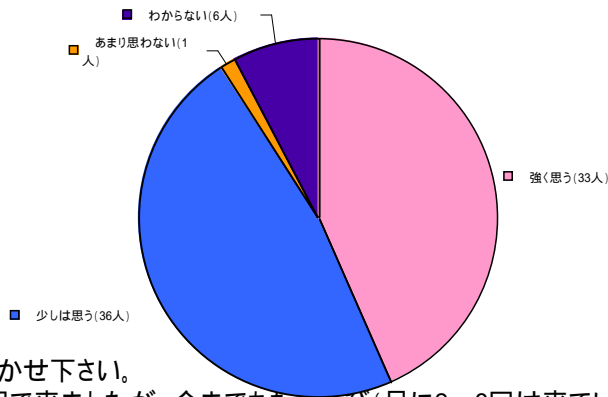


その他、ご意見があればお聞かせ下さい。

- ・官庁街は官庁街でいいと思う。んで根本的に郊外に新しく官庁を広げていった時、一区画もしくは公園としてつくってもらいましょう。
- ・住所は八戸市ですが、何かイベントがある度に十和田市に来ています。「アートチャンネルトワダ」はとてもいい計画だと思います。
- ・この十和田市の景色をいかしたものがいいなあ！
- ・今の社会の仕組みや経済が悪いので、また事件や暗いニュースが多い時世なので、こういうイベントを催すことを通して大人や小人、また家族が参加できることがとてもすばらしい発想だと思います。

設問5 「野外芸術文化ゾーン」を実施することで十和田市はより魅力的な市になると思いますか。

強く思う(33人)
 少しは思う(36人)
 あまり思わない(1人)
 わからない(6人)



その他、ご意見があればお聞かせ下さい。

- ・今回は弘前よりたまたま小用で来ましたが、今までもたびたび(月に2~3回は来ています)官庁街通りがすばらしく、隣が運動公園もあり、緑が豊かで素敵なので、一層PRしてどんどんいろんなイベントや企画を設けてほしい。
- ・官庁街通りがよりひきたつ芸術を願います。自然に溶け込んだ。
- ・子供も大人も楽しめる施設がほしいのだけれど、それも一回でもう行かないというものではなく。アートと関係なかったかな？
- ・広報を拝見しましたが、実現できれば素晴らしいと思う。
- ・そういう場はあっていいと思う。そういうことに共鳴する人もあると思うし、なければ出会わなければそこまでだし、あっていいと思います。
- ・駐車場の完備。
- ・芸術も大切で良いとは思いますが、それ以前に図書館にエアコン(クーラー)を入れるとか、官庁街だけではなく他の道路の整備にも力を入れてほしいものです。

設問6 「アートチャンネルトワダ」および「野外芸術文化ゾーン」についてご要望、ご意見があればお聞かせ下さい。

- ・来年も楽しい企画を期待しています。
- ・時間がないもんで今度ゆっくり話をききたいもんですね。ゆっくり計画案が見たいですね。
- ・見てさわって遊べるなら子供たちもあつまらさうな。子供たちが集まる所って、大人たちも集まってくると思う。
- ・高森山の運動場をつくってからやったらどうでしょう。
- ・もっとポップではなく官庁街のイメージを壊さない程度のテイスとを持ったアートにした方がいいと思いますよ。
- ・十和田を変えていきましょう。
- ・自然の中に人工的な創作物があれば面白いと思う。
- ・私は以前北海道で即興音楽のパフォーマンスをしていましたが、どこでもロックやジャズなどジャンルに定義されない音楽は発表する場が限定されるのが実情です。広義のアートとして音楽も含めた企画ができることを希望します。
- ・NP十和田が近くにあり、国内外の観光客に知られてる十和田市(H17.1.1より十和田湖町の合併)であるから、具体的に県内の画家による十和田湖や奥入瀬溪流の油絵を展示しては如何。
- ・私の住んでいる街は、木陰などの通りがあまりありません。いいなあと思いました。フリマを定期的で開催してほしいです。よろしく！
- ・どんどんチャレンジしてアートを身近にできればすばらしいと思います。がんばって下さい！
- ・とくに要望がありませんが、若い人たちががんばっているから十和田は良くなると思います。
- ・市内の枠を越えてすばらしい。
- ・十和田市の職員の方々がアーティストの選定や具体的な企業の立案などを行った方がもっと魅力的なものになるのでは???
- ・いやされる所。
- ・市民が参加できいつも楽しめる交流できる場所になればいいなと思います。
- ・ずーっと続けて活動を。大変にならないように・・・。
- ・若い人がどんどん参加しやすい感じになればいいと思う。また親子でというのも興味がもちやすいのでは。
- ・おもしろかった。
- ・ごろうさま。まちのために計画ですね。アートの発信基地の一つになると思いますので、がんばってください。
- ・これから月に一回土曜日が日曜日に開催すれば、もっと市民にアピールできて喜ばれると思います。

アンケートの分析

- ・約6割の参加者がイベントに満足した結果になったが、より多くのプログラム実施を求める意見も多かった。(設問1から)
- ・チラシや広報とわだの告知からイベントに参加された方が半数にのぼった。普段は人通りが多くない桜の広場前にもかかわらず「たまたま近くを通りかかって」という声が多かったのは、市民納涼祭りで会場付近でさまざまなイベントが行なわれていたためだと考えられる。(設問2から)
- ・vol.3の詳細が決定しており次回のアートチャンネルトワダの広報も行ったためか、回答者のほぼ全員が次回のイベント参加を希望する結果となった。(設問3から)
- ・「野外芸術文化ゾーン」について市民の方から説明を求める声が多く、多数の方が高い興味を持っていることがわかった。このイベント中に積極的に周知活動を行えたことは重要なことであった。今後も継続的にこのような場を設けることが望ましい。(設問4から)
- ・官庁街通りの活性化のために、「野外芸術文化ゾーン」が担う役割は大きいと市民の方は考えていることがわかる。今回得られた意見を基本計画に反映していく必要がある。(設問5、6から)

3、アートチャンネルトワダ vol.3

概要

主催：十和田市
後援：十和田市商店街振興組合連合会
企画制作：ナンジョウアンドアソシエイツ
日程：10月9日(土)、10日(日)、11日(月祝)
ところ：官庁街通り、駒っこ広場、中央商店街など十和田市全域

vol.3は市制施行50周年を記念事業「駒街道フェスティバル」の一環として行われた。官庁街通りを中心に、3組のアーティストの作品を介してアートと人、アートと街、人と街の間にコミュニケーションが誘発されるような場づくりを行うことを主眼とした。また、みなれた風景にアートを挿入することによって非現実的な空間をつくりだし、新しい街の魅力をひきだすことにつとめた。

イベントの来場者数を数値値するのは難しいが、参考までに駒街道フェスティバルの来場者数は10日3,000人、11日15,000人である。

作家略歴



磯崎道佳

1968年茨城県生まれ。コミュニケーション・ツールとしてのアートの力を表現活動の核としている。近年は、何かをつくりだすプロセスを体験することを重要視しながら、子どもの遊びをモチーフに、他者が介在することによって成立するパフォーマンスやワークショップなどの参加型の表現活動を行っている。国内外での展覧会やワークショップ、レジデンスなど多数。



井上信太

1967年大阪府生まれ。平面表現の可能性を探求し作品表現としている。大学卒業後、和太鼓集団「和太鼓一路」のメンバーとして、約100箇所のヨーロッパ劇場公演に参加。1998年大阪府主催のART-EX芸術家交流事業にてドイツに滞在。2001年中国、内蒙古、北京にて映像作家前田真二郎と羊飼いプロジェクト2001を制作。98年より京都精華大学美術学部映像科非常勤講師。羊飼いプロジェクトを中心に国内外で多数の展覧会を行なう。

前田真二郎



1969年生まれ。映像作家。90年頃から国内外の映画祭や展覧会にて発表を続けている。2000年には映像作品「オン」をやドイツのアーゼナーレなどで発表を行っている。近年は他領域アーティストとのコラボレーション制作についても積極的に取り組み、次世代映像表現の可能性を探っている。

牛嶋均



1963年福岡県生まれ。1985年舞塾第15期集中ワークショップに参加後、渡欧。3年間の滞在期間中、ヨーロッパ各地でパフォーマンスや展覧会を行った後、帰国。参加者や観客のあいだでコミュニケーションが生まれるような遊具や基地などを題材とした作品制作やワークショップを行っている。高森山にモニュメント遊具「UMA」を設置予定。

イベント詳細

磯崎道佳ワークショップ「巨大生物づくり」

アーティストと作品をともにつくることで「アート」を体験してもらうワークショップ。

市および十和田おやこ劇場に参加者募集の協力をお願いしたこともあり、雨の中にもかかわらずワークショップ当日には子供36名、保護者16名、ボランティア3名の総勢55名が集まった。時間が経つのも忘れ夢中になって巨大生物を作る子供たち。「もの(アート)をつくる」プロセスをアーティストと参加者全員で共有できたことは重要な経験になった。このワークショップでは「十和田おやこ劇場」にワークショップのサポートをお願いした。ワークショップなどの経験が豊富であるため、ワークショップはスムーズに進行することができた。

とき:10月9日(土)午後1時から午後6時

ところ:十和田市保健センター

協力:十和田おやこ劇場



ワークショップの説明風景



巨大生物の下絵をつくる



夢中で思い思いの巨大生物を描く子供



子供も保護者もいっしょになってビニール袋をはりあわせて体をつくる



巨大生物に飾り付けをする



巨大生物に空気を入れる

磯崎道佳「巨大生物ないぞうたんけん」

前日のワークショップで作成した巨大生物を屋外空間に設置するプログラム。全長20mの巨大生物に2台の送風機で風を送り込み立ち上がらせる作業は、悪天候のため困難を極めたが、十和田工業高校のボランティアが10名近く作業に参加し、ようやく立ち上がった時には、沿道の市民の方から大きな歓声があがった。

また11日の午後には巨大生物の内部に観客が入って探検するプログラムを行った。思いがけず広い空間に子供たちは驚いた様子で走り回っていた。最終日はワークショップに参加した子供たちも大勢集まり、巨大生物をこわすイベントを行なった。自分たちの手でつくったものをこわすという行為に戸惑いを感じる人もいたが、プログラムがはじまるとビニール袋をやぶることに没頭していた。

とき: 10月10日(日)、11日(月祝)午前10時から午後4時

ところ: 官庁街通り東側および商店街



巨大生物に空気を入れていく



雨の中で悪戦苦闘する



起き上がった巨大生物



子供たちを中へと誘導する



意外に広い内部空間



巨大生物最後の時

井上信太 / 前田真二郎「羊飼いプロジェクト2004 in towada」

多数の人の協力によって、十和田市のいたるところに無数の羊の群れが「放牧」された。放牧中は自然と周囲の人も「羊」やアーティストとコミュニケーションを図る場面が多く見られた。その様子は写真と映像作品へと還元され、中央商店街で展示された。日常の十和田の風景ががらりと変わるそれらの作品に来場者はひきこまれているようであった。またイベント中は官庁街通りや商店街を中心にインスタレーションを行った。

とき:10月10日(日)、11日(月祝)午前10時から午後4時
ところ:中央商店街、官庁街通りを中心に十和田市全域



中央商店街でのインスタレーション



官庁街通りでのインスタレーション



プロジェクト会場入口



官庁街通りのモニュメントの周囲に



相撲場にて



田園地帯で撮影

牛嶋均 「free style see saw —自由シーソー—

車輪のついた不思議なシーソーが官庁街通りにあらわれるとたくさんの子供たちが集まり、見たことのない楽しそうな遊具に興味津々のようであった。操縦するコツを覚えるまでは、ボランティアやアーティストが同乗して子供たちにシーソーを体験してもらった。はじめは、思うように回転せず急きょ部品交換するなどのトラブルに見舞われたが、晴天にも恵まれ、シーソーは子供たちを乗せて官庁街通り、商店街を走り回った。

とき：10月11日(月祝)午前10時から午後4時
場所：駒っこ広場を中心に官庁街通り、商店街路上



商店街にて



ヨサコイダンサーと



羊とシーソー



十和田工業高校のボランティアの生徒たち

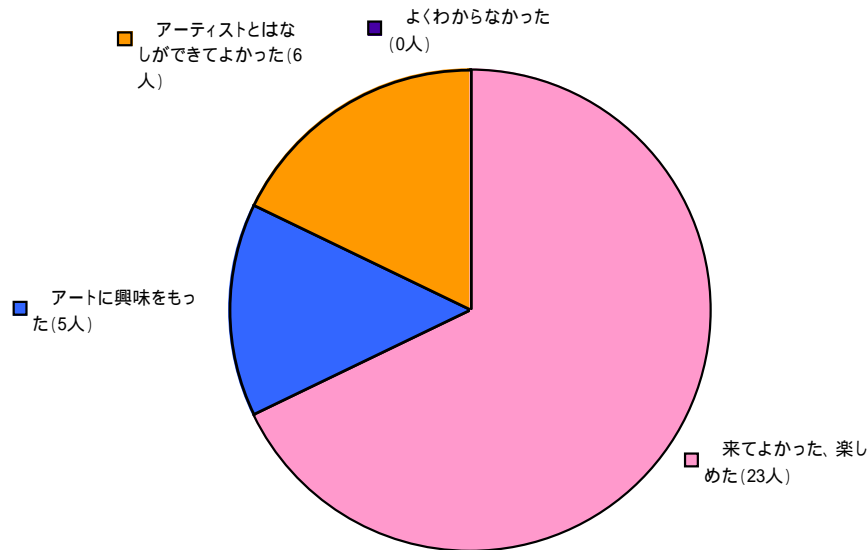
アンケートによる調査結果

「アートチャンネルトワダ vol.3」開催期間中、来場者にアンケートへの記入協力を募った。アンケートはワークショップ、イベント用と2種類用意した。アンケートの調査結果は次の通り。

A 磯崎道佳ワークショップ「巨大生物づくり」
アンケート回収枚数 35枚

設問1 ワークショップ「巨大生物づくり」はいかがでしたか。(該当する番号に をつけてください。いっばいつけてもかまいません。)

- 来てよかった、楽しめた(23人)
- アートに興味をもった(5人)
- アーティストと話ができてよかった(12人)
- もっとたくさんのイベントがあった方がいい(6人)
- よくわからなかった(0人)



その他、ご意見があればお聞かせ下さい。(自由回答)

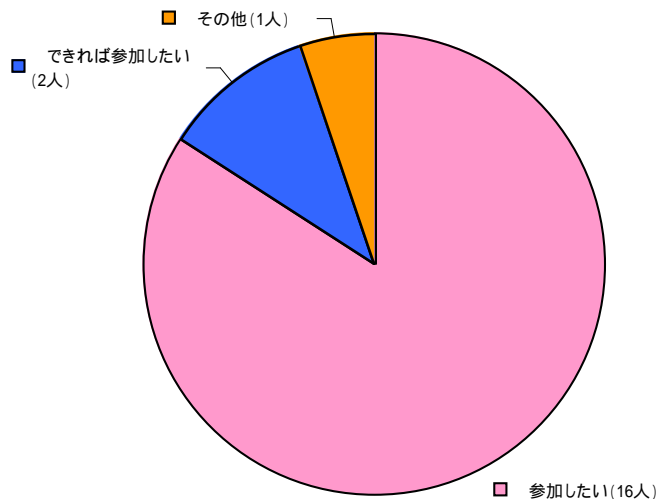
- ・きょだい生物作りが毎月あるといいと思う。
- ・もっとテーブルをつけたかったけどつけられなかったのちょっとざんねんでした。
- ・疲れましたが、子供たちは最後までよく頑張ったと思います。私自身も「巨大生物づくり」に参加してよかったです。

設問2 今日のワークショップに 参加して、良かったことや印象にのこったことは何でしたか？

- ・友達ができた。
- ・ふくろをつなげるのがおもしろかった。
- ・たのしかった。
- ・みんなが協力して一緒のものを作れたことが良かったと思います。
- ・とてもつかれたけど、最後がよかった。
- ・したに入ってよかった。
- ・いろいろはれたりしておもしろかったです。
- ・空気を入れてふくらんでいくのが楽しかった。
- ・子供たちと一緒に巨大なものを作れた事が楽しかった。完成した時の子供たちの歓声がすごかったです。
- ・テープをはってたのしかった。
- ・自由に制作出来たので楽しかった。
- ・もぐってたのしかった。
- ・沢山の人数でひとつのものを作るという経験があまりなくとても楽しめました。
- ・こんなに大きくなるとは思わなかったのに天井についていたのでびっくりした。だからここに来てがんばったと思います。
- ・空気を入れた時の子供達の笑顔が良かったです。
- ・はるのがとてもたのしいのがつくれた。
- ・すごく大きくふくらんですごかったです。
- ・あさおきたときは、ちょっとめんどくさそうとおもっていたけど、きたら、とてもたのしくて、なまえもちょっとあやかのかんがえをいれてもらったので、あしがたのしみです。
- ・ゴミ袋なんかであんな大きな生物ができておもしろかった。
- ・大へんだったけどすごかった。

設問3 これからも今日のようなイベントがあれば参加したいですか。

参加したい(16人)
 できれば参加したい(2人)
 その他(1人)



設問4 自由に感想をお書きください。

- ・みつあみがたいへんだった。あとから「うまっこギラス」から、「うまっこギラス子」ちゃんがいいなと思ったよ。
- ・おもしろかった。
- ・天気がよくなればいいと思います。
- ・ありがとうございました。
- ・またきょだい生物などこんなことをやりたいです。きょだい生物だったらかならず行きたいです。
- ・ビニールなどガムテープではりいろんなことができた。
- ・すごく大きくふくらんで天じょうにつくななんて思いませんでした。きょだい生物がまたあったらかならず行きたい。
- ・はじめてだったけど、とても楽しかったです。(2人)
- ・こんなにデッカクなるとは、おもわなかったので、とてもびっくりしました。
- ・またきたい。(2人)
- ・やぶいちょうのはいや。
- ・ありがとうございました。楽しかったです。
- ・きてよかったです。

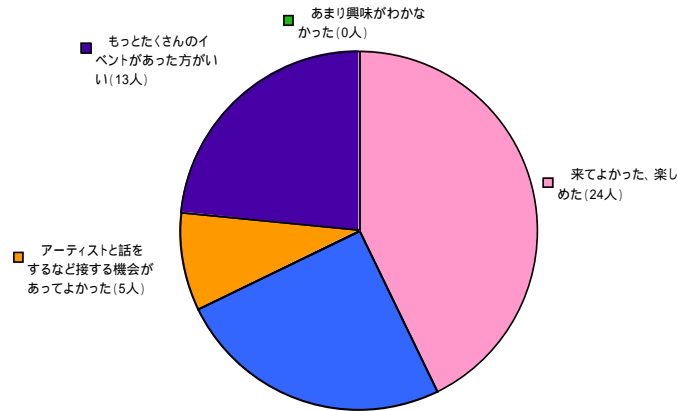
アンケートの分析

- ・アンケート回答者全員がワークショップに対して好印象を持っており、次回の参加にも積極的な姿勢をみせた人が大半だった。(設問1、3から)
- ・参加者全員がひとつの作品をアーティストとの共同作業でつくりあげたことに非常に大きな満足感を感じたことが回答からわかる。また子供とその保護者も参加できたことから、子供の創造力や成長ぶりを目の当たりにできたこともこのワークショップが受け入れられた重要な要素であると考えられる。(設問3、4から)

B 「アートチャンネルトワダ vol.3」
アンケート回収枚数 46枚

設問1 アートチャンネルトワダ vol.3はいかがでしたか。(該当する番号に をつけてください。複数回答可。以下同じ。)

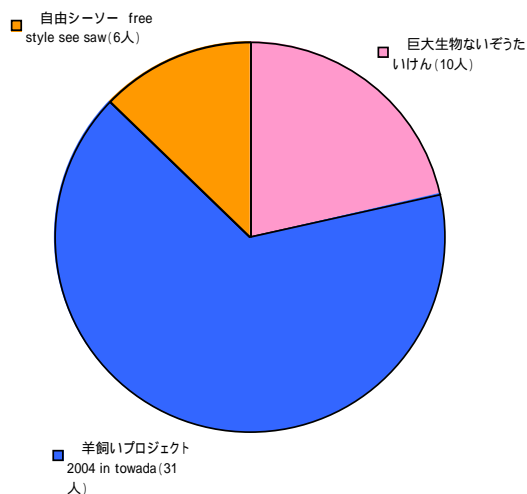
- 来てよかった、楽しめた(24人)
- アートに興味をもった(14人)
- アーティストと話をするなど接する機会があってよかった(5人)
- もっとたくさんのイベントがあった方がいい(13人)
- あまり興味がわかなかった(0人)



その他、ご意見があればお聞かせ下さい。
 ・アートに興味をもった(14人)
 ・興味をもったがもっとイベントがあていい。
 ・アートにふれる事が出来て、市外からみてうらやましいと思います。自由な発想、奇想天外っていいですね。

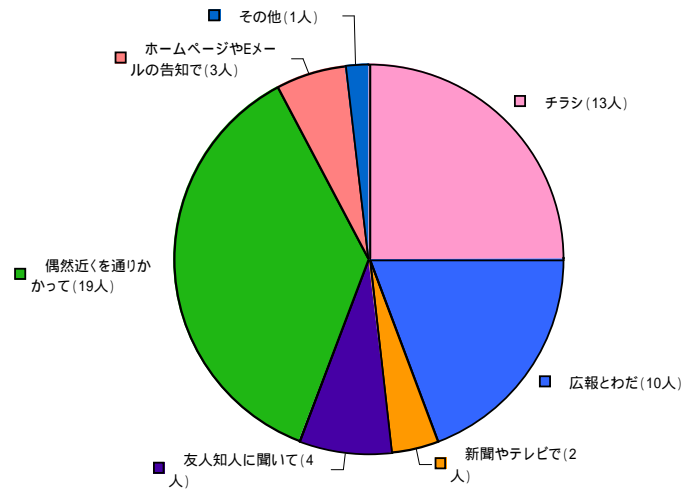
設問2 どのイベントが印象に残りましたか。

- 巨大生物ないぞうたいけん(10人)
- 羊飼いプロジェクト2004 in towada(31人)
- 自由シーソー free style see saw(6人)



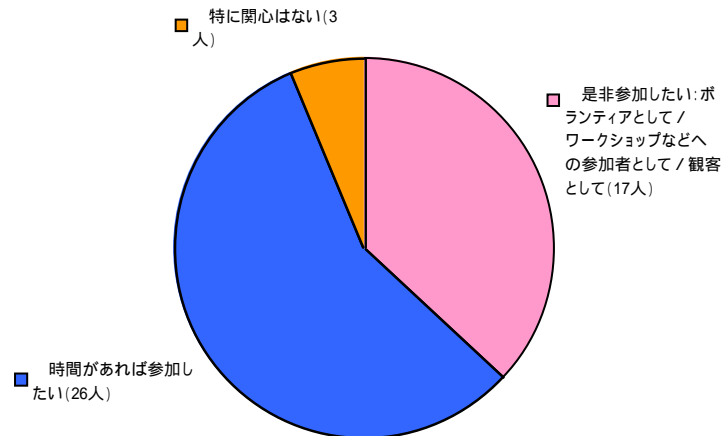
設問3 今回のイベントのことをどのように知りましたか。

チラシ(13人)
 広報とわだ(10人)
 新聞やテレビで(2人)
 友人知人に聞いて(4人)
 偶然近くを通りかかって(19人)
 ホームページやEメールの告知で(3人)
 その他(1人)



設問4 またこのようなイベントがあれば参加したいですか。

是非参加したい(ボランティアとして/ワークショップなどへの参加者として/観客として)(17人)
 時間があれば参加したい(26人)
 特に興味はない(3人)

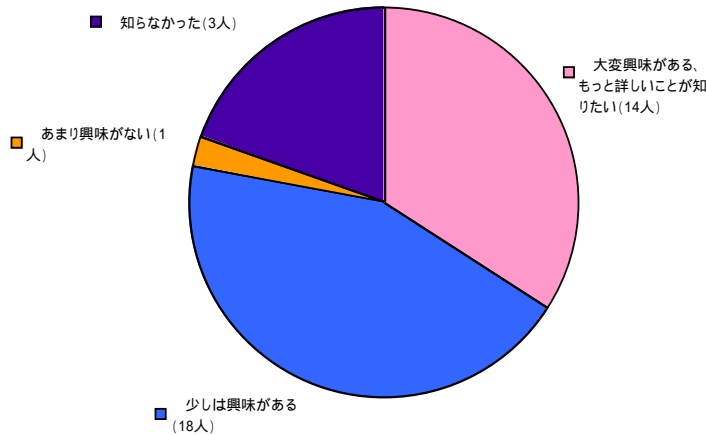


その他、ご意見があればお聞かせ下さい。

・町おこしetc.にはイベントが必要だと思う。だんだんさびれていく商店街。イベントとして活気づけていって欲しいと思います。

設問5 現在十和田市では、官庁街通りにアート作品を置いたり、芸術活動をサポートする施設をつくる「野外芸術文化ゾーン」を計画しています。「野外芸術文化ゾーン」についてご意見をお聞かせ下さい。

- 大変興味がある、もっと詳しいことが知りたい(14人)
- 少しは興味がある(18人)
- あまり興味がない(1人)
- 知らなかった(8人)



その他、ご意見があればお聞かせ下さい。

- ・50周年の企画大成功と思います。これからも商店街でもっともっとやって欲しいです。
- ・中心街の方が良いと思います。

アンケートの分析

- ・雨のために屋外にてアンケートを取ることが難しく十分な回答者数が得られなかった。
- ・イベント全体に対する印象としては、「来てよかった、楽しめた」「アートに興味をもった」「アーティストと話をするなど接する機会があってよかった」という意見が多く(全回答者の約6割)、参加者の大半に満足いただける結果となった。しかしながら、vol.2にひきつづきイベントの少なさを指摘する人が多かった。(設問1から)
- ・アートプログラムの中で「羊飼いプロジェクト in towada」が最も評価が高かった。このアートプログラムは十和田で行われたサイトスペシフィック*なものであり、それらが作品にも反映され、人々から受け入れられたようであった。またさびれた商店街の一角をアート空間に変えたことも観客を驚かせた要因になった。また商店街でアンケート記入された方が多かったということも回答数に反映されていると考えられる。(設問2から)
- ・vol1、vol.2の経験をふまえて、今回も積極的に広報活動を行ったが、思ったよりも「チラシ」や「広報とわだ」などでの告知を見て来られた方は少なかった。(設問3から)
- ・回答者の9割が次回イベントへの継続的な参加を希望している。(設問4から)
- ・悪天候のためvol.2とは異なり、「野外芸術文化ゾーン」についての積極的な周知活動を行うことができなかったが、相変わらず市民は高い関心を持っていることがわかった。今後も市民の方に説明し、意見を聞く場を設けていくことが重要である。(設問5から)

*サイトスペシフィック 美術作品が“特定の場所に帰属する”性質を示す言葉

4、総括

「アートチャンネル トワダ」は今後推進してゆく「野外芸術文化ゾーン」の広報およびアートの紹介ならびに官庁街通りにおけるイベント実施の効果測定としてのプレイベントという位置付けであった。これまでに例のない実験的な要素を多くはらんだイベントでもあり、今回得られた課題を今後のイベント開催に生かすことが重要である。全体を総括すると、ポイントとして次のことが挙げられる。

< 集客および広報、告知に関して >

・天候に左右される屋外イベント

vol.2は今夏の猛暑でイベント期間中は連日気温が40度前後あり、涼を求めて多くの人アートカフェに来たが、vol.3は季節外れの台風の影響で、イベント直前での展示プランの変更やプログラム変更をよぎなくされ、来場者数の減少につながった。

・広報戦略の見直し

vol.2は急きょ実施が決定したこともあり、準備期間が十分にとれなかったため広報開始が遅くなり、チラシ配付数も多くはなかった。くらべてvol.3は告知に十分な時間があり、定期的に広報とわだも利用することができたが、それが直接的な来場者数増加にはつながっていない。今後は広報戦略の見直しが必要である。

・ウェブサイト、メールリストを効果的に利用

今年度のイベント広報ではウェブサイトやメールリストを最大限に使用したが、思ったより効果があらわれなかった。より一層のメールリストの強化や定期的なウェブサイトの更新が必要と考える。

・市民グループとの連携による広報

vol.3では十和田おやこ劇場に磯崎道佳のプログラムを中心に広報やワークショップのサポートを協力いただいた。ワークショップ参加者数は事前に定員に達し、スムーズにプログラムを行うことができた。今後もプログラムにあわせてさまざまな市民グループと連携を取り、ネットワーク拡大につとめることも重要だと考えられる。

・商店街や公共施設でのチラシ、ポスター掲示

vol.2、vol.3ともに商店街や公共施設、電車内など目につきやすい場所でのイベントチラシ、ポスターの掲示を行うことができた。昨年度にくらべチラシもデザイナーが制作した本格的なものとなった。チラシやポスターの事前掲示が直接的に来場者増加につながっているかは数値化できていないが、イメージ戦略のひとつとして成功したと考えられる。

・イベントの集中する時期での開催のメリット、デメリット

vol.3では体育の日、市制50周年記念の行事と同時期であったため各地で多くのイベントが開催され、テレビ局や新聞社などの記事枠、放映枠の確保が難しかった。しかしながら、同時期開催のため来場者数の増加が見込めるなどのメリットもある。

< イベントの運営方法について >

昨年度に引き続き「アートチャンネルトワダ」の運営は市からの協力体制のもと、ナンジョウアンドアソシエイツが委託をうけた。またvol.2は市民納涼祭り、vol.3は駒街道フェスティバルの一環として開催されたため、商工会議所や商店街振興組合連合会などが後援につき協力を得られた。

・悪天候など様々な状況にあわせた臨機応変な対応の必要性

vol.2では事前にプログラム内容をスムーズに行うための段取りが十分できており、スムーズに行えた。vol.3ではプロジェクト型の作品が多く事前に詳細をきめられないことが多かったことや天候の悪化により現場で急遽対応することが多かったが、イベントも3回目を迎えスタッフも臨機応変に対応することができた。

・ボランティアスタッフの重要性

vol.2では弘前や青森からアート関係者が駆け付け、作業を手伝ってくれたことは大変ありがたかった。またイベント開催決定から実施まで時間が十分ではなかったこともあり、スタッフが少人数で済むプログラムを行いスムーズなイベント運営ができた。

vol.3はvol.2に比べ規模が大きいため、事前に積極的にボランティア集めを行った。しかしながら広報のみでのボランティア集めでは十分な人数を確保することができず、市と十和田おやこ劇場から、十和田工業高校のボランティアサークルを紹介いただき、ボランティアを確保することができた。ボランティアの高校生たちは悪天候にもかかわらず熱心に作業に参加し、イベント成功の大きな力となった。またvol.2に来場した方が今回アシスタントスタッフとして参加された。今後も来場者や関係者とイベント告知等の情報を積極的に知らせることでネットワークを作ることが重要になる。

< イベントについて >

今回のアートチャンネルトワダvol.2、vol.3では、来年度からの「野外芸術文化ゾーン」の実施にむけてより具体的にアートと街の関係を見せるプログラムとした。またできるだけ多くの市民に楽しんでもらえるように、「わかりやすさ」や「体験型」を重視したプログラム構成とした。

・イベントの少なさを指摘する声に対して

vol.2、vol.3ともより多くのプログラムを求める意見が多く聞かれた。時間や予算、場所など限られた条件の中ではあるが、ただ鑑賞するだけではなく、参加者が何らかのアクションを多く行えるプログラムを充実する必要がある。

・カフェの充実

昨年度のカフェの好評を受け、vol.2ではアーティストプロデュースのカフェを設営し、より積極的にアートとカフェを融合することができたが、非常に評判が良かった。屋外でイベントをする場合はやはり休憩スペースを設けることが欠かせない。vol.3でも休憩スペースの設置を予定していたが、悪天候のため実現しなかった。

・商店街の利用

vol.3では官庁街通りだけではなく、中央商店街および商店街の路上を利用したプログラムを行ったが、初めての試みに来場者は概ね好印象を持っていた。商店街の活性化あるいは今までとは異なる用途での再生は多くの市民が望んでいることである。野外芸術文化ゾーンを実施するにあたり、官庁街通りから市全域への波及について考慮する上でも重要な実験プログラムとなった。

・プログラムの効果的な動線形成

vol.3では官庁街通りから商店街とさまざまな場所でプログラムが行われたが、事前にガイドを作成しておらず混乱された来場者も多く見られた。今後は事前にわかりやすく、見やすい誘導マップやガイドを作成し、スムーズな動線づくりを行う必要がある。またvol.3では悪天候のせいもあり十分なアンケート数を取ることができなかった。今後はアンケートの内容およびアンケートの実施方法についても検討しなければならない。

< 目的の達成度について >

今回「アートチャンネルトワダ vol.2, vol.3」には、「野外芸術文化ゾーン」の効果測定のためのイベントとして、アートの紹介および周知、市民の反応の調査の目的がかかげられていた。アンケート結果から、次回も引き続きイベントに参加したいとの意見が大変多いことから、アートを使ったプログラムへの強い興味と期待があることがわかった。また野外芸術文化ゾーンの推進のためにも、もっと多くの市民を巻き込んだ形のイベント、多くの市民が積極的に参加できるようなイベントへ膨らませていくことが望ましい。今後アートチャンネルトワダと野外芸術文化ゾーンの関係がより明確に市民に提示できるようにしていく必要がある。

< 次回イベントを開催に向けての提案、および課題 >

上記で今回のイベント開催時の様々な反省点等を明示したが、開催時回収したアンケートからも明らかなように、大多数の方が次回開催を要望している。次回実施時期は未確定であるが、開催の実現と、また実施時の成功のために、今回の反省点を踏まえた提言を改めて明記したい。

・野外芸術文化ゾーンをみすえたプログラム構成に

アンケートを通してよりプログラムの充実を求める声は大きい。また来年度より野外芸術文化ゾーンが実施される予定であることから、プレ事業としての成果をより具体的に出さなければならない。市民のイベントへの参加の仕方や官庁街通りをどのように使うかなど、より一層プログラムの検討が必要となる。また運営面でも文化ゾーン実現を睨み組織づくりを行う時期に来ている。

・屋外空間をいかしたプログラム構成

屋外空間をフル活用したイベントは、スケールの大きいプログラムを行うことができる反面天候の影響を受けやすい面もある。今回は屋外プログラムならではの特色を出しながら、天候の変化にも対応できるようなプログラム構成にすることがスムーズな運営につながる。

・市民グループや教育機関とのネットワークを最大限に利用

vol.2では県内のアート関係者が、vol.3では十和田おやこ劇場や十和田工業高校のボランティアが非常に大きな役割を果たした。彼等の継続的な参加も重要な力となる。今後もネットワークを強化していく必要がある。

・戦略的な広報宣伝

vol.1からvol.3のイベントを通して、チラシや広報とわだ、メーリングリストを使った広報活動を行ってきたが、入場者数の増加には十分は効果があらわれていない。またメディアに対しても場当たりの対応になりがちで十分に広報戦略が立案できていなかった。メディアの活用やチラシの配付先など今後の広報について見直す必要がある。またチラシのデザインやイベントでの配付物などもデザインや紙質等を検討する必要がある。

チラシ、プレスリリース送付先リスト

(vol.2 総配付数2500枚、vol.3 総配付数 6500枚)

美術関連

国際芸術センター青森(ACAC)
harappa
鷹山宇一記念美術館青森県美術館
ICANOF
ギャラリーデネガ
八戸市美術館
NOVITA

十和田市関連

市関連施設(公民館など)
市内小中学校
市内幼稚園
十和田国際交流委員会
アクション21
キャンシティ
十和田ボランティアガイドの会
十和田おやこ劇場
NPOプロ・ワークス
十和田南部裂織保存会
十和田観光電鉄
市内スーパーマーケット
市内飲食店
商店街

青森県関連

青森県教育庁
青森県福祉部
青森県文化観光部
JTB青森

専門家委員会、プロジェクトアドバイザー関連

和田光弘氏
小林央子氏
弘前大学教授北原啓司氏
明山応義氏
日野口晃氏
花巻庄司氏
兼平文憲氏
月舘敏栄氏

プレスリリース配布先

東奥日報
デーリー東北
県南新聞
文化新聞
十和田新報
朝日新聞
読売新聞
毎日新聞
河北新報
NHK
青森放送
青森テレビ
青森朝日放送
美術出版社

野外芸術文化ゾーンモデルイベント調査報告書

別添:制作物一式

平成16年10月

エヌ・アンド・エー株式会社
(NANJO and ASSOCIATES)

制作物

チラシ (vol.2、 vol.3)
アンケート (vol.2、 vol.3)
プレスリリース (vol.2、 vol.3)
LOCO in TOWADA 2004 (vol.2 / アートガイドブック)
ボランティアの手引き (vol.3)
掲載記事
写真資料 (CD-ROM)